PAT-NO:

JP362285406A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 62285406 A

TITLE:

COMPOSITE SOFT MAGNETIC THIN FILM

PUBN-DATE:

December 11, 1987

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

ISHIWATA, NOBUYUKI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

NEC HOME ELECTRONICS LTD

N/A

APPL-NO:

JP61128430

APPL-DATE:

June 3, 1986

INT-CL (IPC): H01F010/10

US-CL-CURRENT: 204/192.2

ABSTRACT:

PURPOSE: To form a composite soft magnetic thin film enabling the control of magnetostriction and being suitable for a magnetic head, by laminating a soft magnetic Fe film and a film of soft magnetic iron nitride alternately by a sputtering method or the like.

CONSTITUTION: A soft magnetic Fe film 2a and a soft magnetic Fe<SB>x</SB>N film 26 ((x) is 2∼8, for instance) are laimnated alternately on a substrate 1 by a sputtering method or an evaporation method, so as to form a composite soft magnetic thin film 2. The film thickness of each of the films 2a and 2b and the ratio in the film thickness between the two films can be determined arbitrarily on the occasion, and they are set so that the composite soft magnetic thin film 2 can have a desired constant of magnetostriction as a whole. This construction enables the control of magnetostriction of the composite soft magnetic thin film as a whole and the effective application thereof to a magnetic head using the soft magnetic Fe film and the soft magnetic Fe<SB>x</SB>N film.

COPYRIGHT: (C)1987,JPO&Japio

⑲ 日本国特許庁(JP)

⑩特許出願公開

⑫ 公 開 特 許 公 報 (A)

昭62-285406

⑤Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

49公開 昭和62年(1987)12月11日

H 01 F 10/10

7354-5E

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⊗発明の名称 複合軟磁性薄膜

②特 願 昭61-128430

②出 願 昭61(1986)6月3日

⑫発 明 者 石 綿

延行

大阪市北区梅田1丁目8番17号 日本電気ホームエレクト ロニクス株式会社内

⑪出 願 人 日本電気ホームエレク

大阪市淀川区宮原3丁目5番24号

トロニクス株式会社

邳代 理 人 弁理士 加川 征彦

明 超 費

1. 発明の名称

複合軟磁性薄膜

- 2. 特許請求の範囲
- (1) スパッタリング法、または、蒸剤法により 秋磁性 Fe膜と 軟磁性 Fe x N 膜とを交互に積層したことを特徴とする複合軟磁性 摩膜。
- (2) 前記Fe級、FexN原間に任意厚みの非磁性膜を形成したことを特徴とする複合軟磁性薄線。
- (3) 前記Fe xN 膜の x が 2 、 3 、 4 、 5 、6 、 7 、 8 のいずれかであることを特徴とする特許請求の範囲第 1 項記載の複合軟磁性薄膜。
- (4) 前記FexN限の1層中に、xの値が一種 類または異なる複数種類のFexNが存在することを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の複合 軟磁性液態。
- 3. 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

この発明は、磁気記録再生装置の磁気ヘッド等に適用可能な複合軟磁性薄膜に関する。

[従来の技術]

スパッタリング法、あるいは、蒸着法により形成された軟磁性Fe(鉄)膜、あるいは、軟磁性Fe ×N(窒化鉄)膜は、飽和磁化が例えば20KG(キロガウス)以上と高いので、その磁気特性を利用した種々の分野への適用が考えられている。例えば、セラミック等の基板にギャップ相当厚みの非磁性膜を介在させて2つの軟磁性薄膜を形成した構造のいわゆる薄膜ヘッドにおける軟磁性薄膜としての利用等が図られつつあるが、従来のこの種の軟磁性薄膜は、軟磁性Fe k N 膜のいずれか一方のみからなる単層構造であった。

[発明が解決しようとする問題点]

上記軟磁性Fe版は正の確歪、軟磁性Fe xN版は負の磁歪を持つ。

ところで、確認ヘッド等の磁気ヘッドの軟磁性 確認として利用する場合、良好な特性を得るため

特開昭62-285406 (2)

には、一般に磁壺を考、または、少し負にすることが望ましいとされるが、上記従来の単層構造のものでは、使用する材料によってその磁壺が定まって、磁盃を適正な値に制御することができず、このため、磁気ヘッドの特性を向上させる上での妨げとなっていた。

本発明は上記事情に震みてなるれたもので、 磁 歪の制御が可能で、磁気ヘッド 等に有効に適用で きる複合軟磁性再限を得ることを目的とする。

[間題点を解決するための手段]

本発明では上記問題点を解決するために、スパックリング法、または、蒸着法により軟磁性 Fe 膜と軟磁性 Fe x N 膜とを交互に積層する構造とした。

[作用]

正磁通の軟磁性Fe膜と負磁通の軟磁性Fe xN 膜とが交互に積層されているため、軟磁性Fe膜、 および、軟磁性Fe xN 膜の各膜厚、および、両 者の膜厚比を適切に設定することにより、 複合軟 磁性薄膜全体として所望の磁歪常数にすることが

の値とする。

また、軟磁性 F e x N 膜 2 bの 1 層中に、x の値 が異なる複数種類の F e x N が混在する組成とし てもよい。

なお、本発明の複合軟磁性存譲は、上述した存 膜へッドに限らず、性々の軟磁性存譲に適用する ことができる。例えば、リング状のフェライトコ アのギャップ部に軟磁性存譲を形成した、いわゆ る、MIG (Metal In Gap)型複合リングへッ ドに適用することができる。この場合、図の括板 1 はフェライトとなる。

また、リング状のフェライトコアの代わりに、リング状のコア自体を軟磁性薄膜の積層により形成した軟磁性薄膜コア型の磁気ヘッドにも適用できる。この場合、積層した複合軟磁性薄膜コアの厚みは、トラック幅相当の20μm~30μm程度とする。

また、主磁優励磁型の垂直磁気ヘッドにおける 軟磁性主磁極膜として適用することもできる。この場合、積層した複合軟磁性複膜の厚みは 0.1 できる。すなわち、磁亜制御が可能である。

〔寒 施 例〕

以下、本発明の一実施例を図面により説明すると、図に示すように、基板1にスパッタリング法、または、蒸着法により軟磁性Fe膜2a、および、軟磁性Fe xN 数2bを交互に積層して、複合軟磁性環際2を形成する。

上記軟磁性Fe膜2a、FexN膜2bの各限厚、および、両者の限厚比は任意であり、複合軟磁性 薄膜2全体として所望の磁亜常数となるように適 宜設定する。

存膜ヘッドに適用する場合、上記書板1は通常 ガラス、セラミック等である。この場合、例えば、 軟磁性 F e 膜 2 a、軟磁性 F e x N 膜 2 bの膜厚は 0.01 μ a ~ 0.5 μ a 程度とし、また、全体の膜 厚は 1 μ a ~ 10 μ a とする。また、通常は軟磁性 F e 膜 2 a の 各層は同一膜厚とし、軟磁性 F e x N 膜 2 b の 各層について同様に同一膜厚とするが、 それぞれについて膜厚を変えてもよい。

上記軟磁性 Fe x N 膜 2 bの x は例えば 2 ~ 8

~ 1 μ = 程度とする。

さらに、木発明は、磁気ヘッドに限定するものでなく、磁型制御を必要とする種々の軟磁性膜に 適用可能である。

[発明の効果]

4.図面の簡単な説明

図は本発明の一実施例を示す複合軟磁性薄膜の 断面図である。

1 … 据板、 2 … 複合軟磁性薄膜、

特開昭62-285406 (3)

2 a··· 軟磁性 Fe to 、 2 b··· 軟磁性 Fe x N to .

出顧人 日本電気ホームエレクトロニクス株式会社 代理人 弁理士 加川征彦

